

## 国道 161 号 小松拡幅 13 工区 環境影響評価準備書に係る公聴会 議事概要

- 1 日 時 令和 5 年 12 月 9 日 (土) 13:00 ~ 14:00
- 2 場 所 高島公民館 小ホール (高島市勝野 670 番地)
- 3 出席者 議長 (環境政策課長)、公述人 4 名、傍聴者 14 名
- 4 内 容

国土交通省近畿地方整備局が、高島市勝野から大津市北小松にかけて整備を予定するバイパス整備事業 (延長: 約 4.3km、4 車線道路) について、標記準備書または見解書に対して環境保全の見地からの意見を述べることを希望する公述人を募集したところ、4 名の方から公述の申出があった。

このため、当該 4 名を公述人と選定し、公聴会を開催したところ、各公述人の意見の概要は以下のとおりであった。

なお、意見の一部については、個人情報保護の観点から、個人が特定されない記述としている。

### 【公述人 1】

私は、高島市鶴川に在住しており、去年、計画されています国道 161 号線のコースについて説明がありました。私は、その時に、初めてそのコースの内容を聞きましたが、現国道から、湖西線までの間の広い田畑が広がっている所を横切り、湖西線をまたいで山の方に向かって道路が通るということでした。そのようなコースに関しまして、私が思った内容を報告させていただきます。

まず、田畑が広がる場所を横断するというので、どうしても環境への問題があります。私も湖西線の東側に田んぼを保有していますが、湖西線の高架により西日がなかなか差し込まず、田んぼの色がなかなか変化しないというような日照障害が出ております。そのような中、また高いバイパスができることはなかなか賛成できないと思っています。

また、私の家の前に湖西線が走っていますが、当然、電波障害は今現在も発生しています。対策としてアンテナ等の高さ調整をしてもらいましたが、なかなか結果が出ておらず、またこのバイパスが整備されると、どのような障害が発生するのか、憂慮しています。

それから、私は仕事帰りに安曇川方面から 161 号線を走行していますが、車の台数が大変多く感じています。安曇川方面から帰ってきますと、南から北上してくる車が沢山あり、なかなか家の方向に右折できず、道路中央で何分も待っており、後続車の追突の可能性を怖く感じています。

そういうようなことで、交通も交通事故も大変心配しており、国道の方を優先に考えていただきたいと思っています。なぜ車が多いかといいますと、白鬚神社が観光ガイドに大きく掲載されて以降、車の交通が大変多くなっているように感じます。

私の考えは、バイパスは山際に通るよりも現国道の方に走っていただきたい。山際のル

ートは鵜川への利点が全くありません。だから現在の国道の方を走ってもらわないと、これから交通事故等が依然と発生すると考えています。

白鬚神社にも右折で進入する人が未だにいます。左折進入だけにしてもらわないと、白鬚神社への右折進入はどうしても後続車の追突のほか、色々な交通障害が発生すると考えられますので、その点も併せて考えていただきたいと思います。例えば、アンダーパスを通し道の下を通り抜けて左折で現国道から集落の方に帰れるようなことも検討いただきたいと思います。これからのバイパスの改善につなげていただきたいと思っております。

## 【公述人 2】

私も同じく高島市鵜川に住んでおります。私は宝塚の出身でこの地を気に入り 30 年ほど前から建物を建て農園等をやっています。その当時から国道 161 号の拡幅計画はあり、農園の土地を取得する時に都市計画的な問題の有無が気になり、今からだいぶ前になりますが、滋賀国道事務所さんにもお伺いして、この計画道路の概要をお聞きしたことがあります。その時には、都市計画法に則って現国道を拡幅するという詳細な道路計画図をお見せいただきました。ちょうど今、北小松からトンネルを抜けて、そこから降りてきて高島市に入ると現国道がそのまま拡幅されると。こと細かに説明もいただきました。そういった経緯もあり、ここのこの棚田の景観が素晴らしいと思い、私はこの景観に感動し、気に入り、土地を購入して現在に至っています。

いったん都市計画法で決定され、用地買収まで済んでいる現国道の拡幅ルート案が突如として、山側のバイパス案に変わり、棚田を分断するような環境破壊の計画が出てきました。私は本当に驚きました。いったん都市計画法で決定され用地買収まで済んでいるということは、その鵜川地区の住民の持っている土地も抛出されている訳です。以前、説明会が、この大ホールであったときには、今回の山側へのルート変更は、鵜川地区の住民の要望でもあるというような言い方をされましたが、私たちは全く知りません。公述人 1 の方は、集落で生まれ育ってこられた方ですけれども、その方にも知らされてない。知らされてないのに、どうして集落の要望ということになるのでしょうか。非常に不可解な計画だなと思いました。白鬚神社の前の交通量等の問題、また湖岸の埋め立ての問題は理解ができないことはありません。他に方法はあると思いますが、理解できないことはないですが、この鵜川地区に限っては、誠に不可解だなと感じます。必然性が全く感じられません。わざわざトンネルを抜いて北小松から出てきた道路を、湖岸の方に向かった道路を、また山の方に、非常に短い 2~3km の区間を、再度 JR を跨ぎ山側に持ってくるというのは、ものすごい大きな工作物になると思います。景観的にも 10~20m 超の高さの道路が、いきなり棚田の真ん中を通るといふ。

あの里山という言葉がありますが、ここは滋賀県で有名な写真家の今森光彦さんがいらっしゃって、里山についての論もたくさんされています。また、前知事の嘉田さんも環境分野に詳しい方ということで、そのお二人がこの鵜川の棚田を訪れて、「守っていくべ

き棚田ですよ」と仰いました。嘉田さんは先日もお越しいただき、「守っていかなければいけないですよ。頑張りましょうね。」と仰いました。それがどうしてこういうことになるのか。非常に不思議だと思います。鶴川の棚田は、同じ国家機関である農水省が「つなぐ棚田」として認定されています。子孫が大人になって、この気候変動や地球規模での環境破壊が非常に問題になっているときに、子どもたちが大きくなったときに、反自然の象徴みたいな巨大なコンクリートの建造物が、棚田を貫くというのは、そしてこの棚田は、私が聞いたのは、もう 500 年くらい前の室町時代からこの石垣を積んだ棚田が現存していたこと。そこから皆さんが先祖の方々が今まで守り育ててきた、そういう棚田なんです。まさに、今森さんが仰るように、人と自然が織りなす、そういう景観、環境です。これを環境破壊と言わなくてどう言うのでしょうか。農水省はこの棚田を保全して守っていこうということで認定をされたにも関わらず、同じ国家機関の国土交通省は国土のことを考える国家機関ではないでしょうか。もともとは運輸省でしたが、今や国土交通省なので、単に道を通すために、そこのけそこのけで 500 年以上も同じ日本人が汗水を垂らして、そしてつくり上げた景観、日本の原風景です。災害にも強いんです。棚田は治水効果がすごいんです。そして棚田の米はすごくおいしいんです。今、米農家の後継者不足で、日本は食糧危機を迎える可能性があります。そういう中でも守り育てていかなければならない棚田。日本の未来に守っていけないといけない。今、何でも反自然に向かっていますが、最後に守っていかなければならない象徴の一つではないかと思います。

滋賀県には琵琶湖があります。それが滋賀県です。琵琶湖の美しさを形成している大きな里山の要素として、棚田が存在します。多様な生物がいます。私たちは無農薬無肥料でお米を育てていますが、今や絶滅されたと言われたゲンゴロウが帰ってきています。タイコウチもいます。そんな生物がいっぱい帰ってきています。それは、今まで人間が破壊してきた中でも保全しようとするれば保全できるということの証です。でも、このような巨大なコンクリートで棚田を潰してしまったら、それはもう不可能になってしまいます。

そして、私たちは棚田の上で子どもたちのための活動をやっておりますが、子どもたちが自然に触れて、琵琶湖を臨む美しい情景の中で時間を過ごすという、そういう時間さえも奪ってしまうことになっていきます。これは国の施策とか、県が同意しているということでは済まされないことではないでしょうか。世界的に環境の保護が叫ばれている中で、全く反自然な全く環境無視の計画だと、言わざるを得ないと思います。

こういう計画を、また今回のこの公聴会にしても、普段全く知らされることがありません。まるで秘密裏に物事が進められているかのように粛々と進められていきます。

先ほど環境影響評価審査会の話もありましたが、当事者は全く無視されています。暮らし、里山という、人と自然の、そういう緩衝帯での暮らしを享受している、その暮らしの真っ只中にいる人たちこそが、環境についていやでも毎日触れて過ごしてるわけですから、そういう人たちの意見を全く聞かなくて、審査会で決めたら OK。そういうことで良いのでしょうか。民主主義というのは、民が主のはずですが、どうもこの計画においては、

そういうふうになっていないと考えざるを得ないと思います。どうか、人が傲慢になって、どんどん自然を破壊して行って、そして取り返しがつかない。そういう状態になる前に何とかしなきゃいけない時期が来ていると思います。世界的な気候変動も、これは人間が作り出したものです。人間が存在することによって、他の生き物がいっぱい絶滅してきます。それはちょっとぐらいはと。それよりももっともって経済的にとか、そういうことで人間の傲慢が作り出したものだと思います。今回の計画もその一つであることは間違いありません。白鬚神社の交通の問題、これは理解できます。近くに住んでいて、人が死んだりするのを聞いているわけですから。それにしても、だからといって、環境はどうでもいいということではないと思います。そして、琵琶湖、琵琶湖ということで、その琵琶湖を言い訳にするような計画でしかない。日々そこに暮らしている人たちのその暮らしを本当真っ向から見つめて、でもこうだというお示しが全くない。ルートは初めから一つに決まっていて、選択の余地もない。そして説明会では、ルートはもう決定しましたがも構造体はまだこれからだからと。どうしてそういうことになるんでしょうか。そのルートを決定する前に、我々ももっと話があって、もっと環境面や、景観面の問題、そういうところ、これは単に地域だけの問題ではなく国全体の国土に関わる問題だと思います。国土を形成している景観をいたずらに駄目にしてしまう。そういう可能性がもしあるならば、踏みとどまってもう少し考えて、他にルートはないものか。もう少し、こんな方法はないのかとか、そういうところを住民と一緒に考えていただければ、それが国土交通省ではないでしょうか。運輸省ではないんですから。しかも、農水省と同じ省庁と横の連携もあるとは思えません。農水省は守り育てていこうと、日本の原風景、棚田百選ということで選定されましたし、棚田というのは日本の誇るべき、世界に誇るべき景観であり、文化の一つです。

先ほども申し上げましたが災害に強いです。治水効果がすごいんです。だから土石流の発生のあるような地域でも棚田があるところについては、棚田が治水をしてくれて水を溜めてくれて、そして自然が調整をしてくれるんです。それこそが人と自然が折り合って生きてきているという、そういう象徴だと思います。私は、これからの世代、今子どもたちが、これからこのツケを負っていくような計画に絶対にさせてはいけないと。道路は造ってしまったら終わりじゃない。でも、造ってしまったらもう環境的には取り返しはつかない。しかも造ってしまったら、どんどんメンテナンス費用も嵩みます。それを全部国民の税金で賄うことになります。そういったものを何百億円もかけて造ってしまう。そういう傲慢な国の政策をもう少し一から考え直していただきたいと切に願っております。

### 【公述人3】

私も高島市鵜川に在住しています。本日はこのような機会を設けていただきまして、ありがとうございます。

まず、以前に提出した環境影響評価準備書に対する意見書と本日の公述に当たって提出した公述内容の概要を読み上げたいと思います。

環境影響評価準備書についての意見書。今回の国道 161 号小松拡幅 13 工区事業について、鵜川地区での山側へのルート変更はあまりに大きな現状変更のため、間接ながら棚田を守ることに携わってきた者として、景観、環境、棚田保全の観点から、断固として反対です。以前、国道 161 号小松拡幅 13 工区事業環境影響評価準備書を閲覧したところ、景観資源の鵜川棚田については、景観資源の一部が改変されるが、大部分は残されると書いてありました。棚田の大部分が残されるため、問題がないのではありません。残された大部分の棚田の中に、コンクリートの巨大構造物が建設されることで、美しい棚田の景観を損ない、また大量の車が通過することで騒音問題、排気ガス等の公害、それに伴う生態系の混乱等、環境に多大な影響を及ぼすことは明らかです。

また、準備書によりますと、鵜川棚田については、眺望景観に変化が生じると予測されるため、構造物、道路付属物の検討に当たっては、周辺景観との調和や地域住民に配慮する。構造物および道路付属物の形式・デザイン・色彩を検討し周辺景観に調和させることで、景観への影響を低減できると書いてありました。どんな形式・デザイン・色彩を検討、採用しても、巨大な構造物が棚田の中を通る限り、滋賀県、そして日本の宝である琵琶湖と棚田の一体的絶景空間は取り戻せません。また、農林水産省の「つなぐ棚田遺産、ふるさとの誇りを未来へ」に選定されている名誉ある棚田であるにも関わらず、今回の山側棚田を通る道路計画は、矛盾が多く相いれがたい関係です。少しオーバーな表現をさせてもらえるなら、これはウクライナとロシアの戦争の映像を想起させるようです。大自然の中を縦横無尽に走る戦車のごとく、今、生きている人間の利便性を優先した道路計画は、果たして未来の子どもたちに誇れるものでしょうか。喜んでもらえる姿でしょうか。

国道 161 号小松拡幅 13 工区は、滋賀県の代名詞ともなっている雄大な琵琶湖と里山の原風景ともいえる棚田が広がる風光明媚な場所です。この現存する棚田の風景が私たちに届けてくれるものは、先祖代々から大切に引き継がれてきた証であり、魂そのものであるということ。棚田のある場所まで牛を引き、そして田植えをされていた方のお話を聞いたことがあります。大変な重労働であったことを。そして、お昼には棚田から見渡せる美しい琵琶湖の景色を見ながらおにぎりを食べたことを。先人たちのご苦労と、棚田の歴史を後世にも守り伝えていかなければいけないのではないのでしょうか。棚田は、高島の滋賀県の、そして日本の魂そのものですから。「100 人で食べたいな。富士山の上でおにぎりを」という歌がありますね。たくさん子どもたちに、この棚田の上で琵琶湖を望みながらおにぎりを食べてもらいたい。私たち大人が本当に大切にすべきものを子どもたちに伝えていかなければいけないのではないのでしょうか。それは環境を無視した便利快適なことを優先した姿ではなく、先人の魂を教え、守り伝えていくことではないのでしょうか。どうか計画変更を再度ご検討ください。どうかよろしく願いいたします。

私は鵜川在住と言いましたが、もともとは大阪に住んでいました。初めてこの高島市鵜

川に来たときは、敷地内にそれは立派なお寺みたいな建物があるんですが、その記憶はほとんどなく、美しく広大な琵琶湖の姿、生まれて初めて見る棚田の美しい姿、これに圧倒されました。移住してもう15～16年になりますが、その時のことをはっきり覚えています。最近の後継者不足で、なかなか棚田が復活できず放棄田もちょっと増えてきました。私が来た頃は本当に緑の草原のように、鶴川の棚田全面にお米が植えられていて、それは本当に美しい景色でした。鶴川在住の方々もおそらく賛成ではなく、本当の心の部分では、この計画は誰一人として賛成していないはずですよ。ずっと語り継がれ、守り継がれてきた棚田です。宝物のはずです。

以前、鶴川に住んでおられた故人の方が言っていました。「もうずっと、もう何十年もこの景色見ているから、そんなふうにすごいな、美しいなって言ってくれる。そうか、私はもう毎日見てるからね。」って。私ももう15～16年見えていますけど、やっぱり朝起きて見る琵琶湖は美しいな、空気はおいしいな。やっぱり残さないといけないな、と毎日思っています。最近特に、フリースクール、子どもたちの活動が、敷地内で行われているということが、その気持ちを強くしました。大人たちの都合で、造られた道路、これは子どもたちにとって悲劇以外の何物でも無いのではないのでしょうか。この姿はいったん壊すと、もう元には戻らない。絶対に守らないといけない。私はそう思います。どうか計画の変更をご検討くださいますよう、改めてお願い申し上げます。

#### 【公述人4】

私も移住者で、今は安曇川に住んでいます。去年11月に高島市に引っ越してきました。市役所に行って住民票を取得して、職員の方に「今日で僕は高島市民に晴れてなれたんですね。」と言うと「そうですよ。」と言われたので、「高島市長に挨拶したいんです。」と僕は言ったんです。町のトップの方に挨拶するというのは、当然かなと、冗談ではなく本気で思いました。職員の方に「あなたたちはずっとこの高島に住んでいるから、この高島の良さがもう分からなくなっている。僕は高島が素晴らしいと思ったから移住してきました。」と言いました。どこを見て素晴らしいと思ったかと言うと、3年くらい前に、この鶴川の棚田で1年間米を作る勉強をさせてもらいました。米をまいて、根が出てきて、その土の中から1個1個取って、植えていく。1年間それをずっと10人くらいでやっていました。そのときに、ぱっと下を見たら、琵琶湖のすごい景色が広がっていて毎回感動するんです。こんなところに住みたいなと思って移住してきました。そういうことを、市長さんも長年、10年もやられているともう慣れてしまって、この環境が当たり前とされているのだとしたら、新しく来た人はこんな気持ちで来たんですよ、ということをお伝えしたくて言いました。当たり前ですが、市長はお忙しくされているのでお会いすることは出来ませんでした。

それで、この国道161号バイパスの問題は、ルートが変更になったことを知らなかったということです。今日は、環境保全について意見を述べる場ですので、少し的外れかも

しれませんが、私は貧困の原因は無知だと思います。例えば、色々な問題の解決がスムーズにいかないのは無知だから。市民の方が無知だからです。無知というのは失礼な言い方ですが、情報を与えてくれないからではないかと思います。私もふとしたきっかけからこの話を聞いて、直前に県の担当の方にも一生懸命聞いて、公述人という制度があり、もし意見があったら述べてくださいと言われ、急遽、1週間ほど前に公述人になろうと思いました。私ももちろん無知です。県のホームページを見ながら事業計画の概要やルート変更の経緯が書いてある場所を聞いて、もう1人違う課の人にも聞いて、それで今日、公述するに当たりいろいろ調べてきました。ここで発表することではないですが、ルートの変更のことが書かれた資料には、国道161号小松拡幅13工区のうち、私の住む高島市のエリアは13工区全体の5分の4くらいです。また、残り5分の1くらいが天津市です。この工区のほとんどは高島市の話です。無知ということに関して言えば、例えば朽木の方はこのことを知っているのでしょうか。ほとんど知らないんじゃないかと思います。公述人2の方も公聴会があることを聞いたのはちょっと前という感じで、知らない人もいっぱいいるわけです。こんな大事なことを決めるのに、なんで住民の方、みんなに知らせて、こういう問題を、環境問題含めて話し合わないのかなというのが不思議で仕方ないです。コソコソしているというと、言葉はちょっと悪いかもしれないけども、住民の方に分からないように進める理由があるのであれば、ぜひともその理由を僕は知りたいです。この国道161号の琵琶湖岸から山側へのルート変更は、滋賀県知事の発言がきっかけで検討がなされたのだと思います。制度等の仕組みは知りませんが、ただ、三日月知事が現地を見学され、ルート変更を言われたのでは無いと思います。誰かが言って、そうしましょうというスタートを切ったんじゃないかと思います。それであれば、誰かの言うことを聞くのであれば、少なくとも、今回私を含めて4人の公述人の発言も聞いていただき、準備書段階でたまたま公述した4人の意見は、このルート変更はやめて、元のルートで造ってほしいという意見だと思います。僕もそういう意見です。

そして、環境とは関係ありませんが、白鬚神社というのはポイントにもなってくると思います。宮司さんに電話をして聞いてみました。例えば富士山は山自体が御神体です。富士山信仰というのがあります。奈良県には三輪山というのがあって、山自体が神様です。ある日一緒に登ると女性の方が裸足で山を登っていました。神様のところに入っていくときに、靴なんかとんでもない。裸足で行くんだと。それで、宮司さんに裏の山にトンネルが開き、道路が通るので、「山は御神体ですか」と聞きました。「御神体では無いけれども、神域です。」と答えられました。「その前に湖西線のトンネルが既に通っている。」と言われ、ガクッとしましたが、だからといって「もう1本トンネルを通して神域に風穴を開けるんですか。」とお聞きしたら、「それはいろんな考え方がありますね。」と言われて。宮司さんは、何となく変更後のルート案に賛成とのことを言われました。だけれども、例えば、通過交通と観光交通という、車が通るのに住民の方を含めて通過だけするというのと、観光の車が通るのを分けて考えるべきです。例えば、琵琶湖に浮かぶ白鬚神社の鳥居は広

鳥居の巖島神社の鳥居を思い起こさせます。そういうことを知らない方も、あの道路を通った際に「こういう景色はすごいな」と思うと思います。水上バイクで鳥居の下を通過する人もいますが、車の中から見るあの景観は素晴らしいものです。それが山側にバイパスを通してしまうとあの景色は道路を走る方から見られなくなるわけですね。何の興味も無い人も、あれを見て、今回は行けなかったけど今度また行ってみようという気持ちになるのであれば、バイパスを通さず現国道を拡幅した方が良いのではないかと思います。宮司さんと話をしたときに、「僕はこんな意見があるんです。」と言ったのは、例えば4車線にして、そこに歩道橋を造ります。少し離れた場所でも良いので、スロープは緩くして、車椅子でも自転車でもお年寄りでも通れるような歩道橋を造り、向こう側に行けるようにします。すみません、勝手な空想の話ですが、向こう側に行った先にステージを造って、ゆっくり写真を撮る、湖を眺めるといような、それを国のお金でやっていただけるのであれば良いと思います。

それでそのホームページ見ていると、現道の拡幅案と山側バイパス案というのがあり、本日の公述人の4人はバイパス案に反対しています。環境の問題も含め、色々なことで反対していると思います。それで少しコストを調べてみました。幅はありますが、現道の拡幅案は80億から130億円、バイパス案は300億から350億円の工事費がかかると書いてあります。80億と350億で比較するとバイパスにすることで4倍のコストがかかるということです。これはもちろん税金ですから、私も微々たる税金を払っているわけで、国民の税金を4倍無駄遣いしているわけです。ただ、見方を考えると、4倍の額の工事が発生するという考え方にもなってくるわけです。だけど、無駄遣いという観点から言うと、そういう工事はなくてもいいんじゃないかと思えます。ましてや、環境を破壊してまでと思えます。

今日の話聞いて、湖西線を跨ぐ道路をイメージすると、あそこに大きな構造物が現れるとすると、もう狂気の沙汰みたいな。どう考えても、冷たいコンクリートの色と棚田の緑色がマッチするわけがないんです。そしたらやっぱり環境というか、環境といっても心の環境も私はあると思います。精神的なものも環境に入ってくると思います。そんな建造物をぱっと見たら、驚くと思います。冒頭にしたように、鶴川で1年間は田んぼをしていて、本当に心地よい風が吹いて、雨の日もあったけど、先ほど富士山でおにぎりを食べるという話がありましたが、鶴川の所で休憩して、また、空気がおいしいんですね。環境という意味では、すごく空気がおいしくて、おにぎりを食べてまた作業をして。そんなのを1年間やっていたところにパッと見たら、すごく巨大な橋桁があって、そこに道路が通っていると想像しただけで本当にぞっとします。やはり、環境というか見た目というか景観というか、風景というか、そこは本当に大事に考えないといけないことです。三日月知事がそういうことを考えるのなら1回来ていただいて、あの風景を何回も見てもらって、本当にルート変更が必要と思われるのであれば、それは知事の考えだから良いのだけれども、周りの意見からではなく、やはりご本人が仰ったのであれば仕方ないと思いますが、



だけど考え直して。今回の4人の意見を聞くと、そうなんだ。現地に来てもらうのはお忙しいかもしれないけど、それは担当の方でもいいし、現場に行って意見を聞いてもらって、市民のためになるのか、市民のためになる工事や計画なのかというのを聞いてほしい。

ここに来る途中、「広報たかしま」が駅にあったので貰ってきましたが、「情報はここに載ってます」という話で済まされるわけです。「皆さんに知らせていますか」と聞くと「ここに載っています」と言われるけど、これを隅から隅まで読む人はあまりおらず、ここに載っているから告知しているという考えはやめていただきたいと思います。高島市はSNSでも情報を発信しており、私も登録していますので、いろんな情報がSNSで入ってきます。こういう工事のことも、今、意見が分かれているのか、いないのか、こういうふうに変更した。どういう作用が働いて変更した。どういうメリットがあって変更した。お金は3～4倍もかかるような工事となった。といった色々なことを高島市のSNSで発信することは出来るはずですよ。おじいさん、おばあさんはSNSを見ないかもしれないけど、例えば、孫が「今、高島市はこうなっている。こんな工事があるってこうなっている。」と言ってあげれば、高齢の方からも「なるほど、それはどうかな」といろんな意見が出てくると思います。

だから、たくさんの意見を聞いて、市民、自分のことだから、ごみの問題もありますが自分のことですから、毎日真剣に考え、道路のこともごみのことも環境という意味では皆さん、市民一人ひとりが考えていく必要があると思います。バイパス案は反対です。

【以上】